

一関支部だより

No.57

第44回一関国際ハーフマラソン大会に 救護活動として参加！



菅原 鈴恵（県立大東病院）

近年の猛暑が長期間続き、安全面を考慮して、大会は昨年より一週間遅い10月4日に一関ヒロセユードームを発着点として開催されました。

9時30分には、すでに気温が上昇し、厳しい暑さの中で1,702名のランナーがスタートしました。

救護活動は、医師、保健師、看護師、理学療法士などのチームで、ゴール地点と体育館の2か所で対応にあたりました。一関支部からはクリティカルケア認定看護師を含む6名が参加し、当日は足の痙攣や脱水症状など、12名の傷病者に対応しました。

大会前の9月17日には医療救護検討会議が開催され、昨年参加したスタッフからの要望を受け、体育館内に救護用ベッドを3台配置するなど、ランナーが涼しい環境で休息できるよう、環境整備にも配慮しました。

通常とは異なる環境の中で、迅速かつ適切な処置を行い、症状の悪化を防ぐためにチーム全体で連携でき、マラソン大会ならではの貴重な体験となりました。

私は2年連続でこの大会に参加させていただきました。今回、保健師の方々、スポーツ協会、高校生、救急救命士を目指す学生、消防関係者など、多くの皆様が大会運営を支えていることを改めて実感する機会となりました。関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



一関支部

「病院施設における感染対策」研修を開催

佐々木 紘理（岩手県一関保健所）

11月14日（金） 講師に県立千厩病院感染管理認定看護師の石川泰洋氏をお迎えし、「病院施設における感染対策」と題して研修会を開催しました。

講話では、感染対策の基礎知識、標準予防策、感染経路別予防策、環境整備及び流行感染症について分かりやすく教えていただきました。

感染対策の目的は、抵抗力の弱い患者・施設利用者を守り看護を行う自分を守るために、統一した方法で感染症の発生予防や発生時の拡大防止を行うことです。標準予防策とは全ての患者の血液、体液等を感染リスクがあるものとして取り扱い、手指衛生及び手袋、マスク等を着用する基本的な感染対策で、この標準予防策を正しく行うことが最も重要です。加えて、空気感染・飛沫感染・接触感染それぞれに応じた感染経路別の予防策を追加することで感染を断つことができます。そして、病室等の患者環境では多種多様な細菌が存在するので、ドアノブ等の高頻度接触部位をしっかりと清掃して、環境表面の汚染が手指を介した接触伝播が引き起こされないよう努めることも大事です。また、集団感染しやすい感染性胃腸炎の対策や、昨年流行した百日咳等についても学びました。

私たちは普段、感染対策を講じながら業務にあたっていますが、分かったつもりになっていることも少なからずあるので、定期的に正しい感染症対策を学び実践していくことが、とても大事だと感じました。

講師には、ご多忙の中、貴重なご講義をいただき感謝いたします。



《支部からのお知らせ》 令和8年度研修会について

- ◆ 令和8年7月4日（土）：テーマ「自殺予防について医療職ができることは何か」
- ◆ 令和8年10月17日（土）：テーマ「自宅でできる口腔ケア 嘔下・障害の有無の見分け



皆様のたくさんの参加をお待ちしています！